

【巻頭言】



教育の未来を山梨から

——ともに築く、新しい学びのかたち

徽典会会長 (教育学部長・大学院教育学研究科長)

長谷川 千秋

少子化が日本各地に押し寄せるなか、山梨県では全国に先駆けて十八歳人口の減少が現実のものとなりつつあります。二〇二一年の山梨県の十八歳人口は七、七六八人、二〇二三年には七、三一九人に減少しました。今後、二〇四〇年には五、〇〇六人まで減ると推定されています。二〇二一年と比較して三五・六%の減少であり、まさに少子化が止まらない状況にあります。ひたひたと迫り来る人口減少社会に、教育はどのように向き合うべきか、次世代を担う子どもたちや大学生に何を授けるべきかが問われているように思います。

山梨県の大学進学率はというと、二〇二二年は六四・六%で全国三位と非常に高い水準です。一方、地元進学率は二四・六%で二三位と低い傾向にあります。少子化と相まって地元進学率の低さは、山梨県で働き手が流出するということでもあります。

これらの少子化、地元進学率の低さは、教員養成にとっても深刻な問題であると考えています。全国的な課題となっている教員不足は、少子化が進めば解消されるとみられています。しかし、少子化により他の職種との競争も激しくなることを考えれば、教員不足の根本的な解消には、教師の給与待遇や環境のさらなる改善(改善されてきていることの可視化も含めて)を常に視野に入れておくべきでしょう。

山梨大学教育学部においては、こうした少子化や教員不足の厳しい現状に目を逸らすことなく真っ直ぐに見つめ、山梨県教育委員会と連携しながら、質の高い教員養成と教員育成に力を入れています。その一端をご紹介したいと思います。

令和八年度四月には、山梨大学教育学研究科(教職大学院)の教育実践開発コースに特別支援教育分野が新設される予定です(文科省に申請中)。これにより、教育学部特別支援教育特別専攻科は令和八年度より学生募集を停止し、長い歴史の幕を閉じることになります。かつて多くの特別支援教育を専門とする

教員を輩出した専攻科ですが、近年Aコース、Bコースともに入学者は数名という状況で、内地留学生もいない状況が続いたため、多くの方の思いのつまった専攻科ではありませんが、やむを得ず発展的に解消を行うこととなりました。専攻科Bコースの特別支援教育専修免許状の取得は、来年度より教職大学院の特別支援教育分野が担うこととなります。教職大学院には、これまで特別支援教育の専任教員がいませんでしたが、特別支援教育を専門とする研究者教員・実務家教員があわせて三名配置され、より高度な特別支援教育を展開することができます。また、一種免許状を取得するAコースに代わり、科目等履修により特別支援教育一種免許状を取得できる「履修証明プログラム」を来年度より開設し、特別支援教育を必要とする方へのニーズに応えていきます。

学部教育においては、教員不足を地域とともに解決していくために、昨年度より文部科学省の「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」を受託し、高大接続事業と、地域枠を中心に学部の教員養成全体を強化しています。この事業により地域枠コーディネーター教員として、小林智先生、望月陵先生をお迎えしました。先生方には、中高大連携や実践的な授業を行っていたいただいています。

地域枠の教員養成のコースである「やまなし小学校教育コース」には、一年生が十四名います。もともととは令和三年度に「山梨県小学校教育特別プログラム」として発足し、昨年度はじめて卒業生を送り出しました。プログラムの学生だけでなく、教育学部の卒業生はみな、それぞれの場所で頑張っていることと思います。

高大接続事業では、五月に県内の普通科・総合学科のある高等学校を地域枠コーディネーター教員、学部執行部、附属教育実践総合センター特任教授が訪問し、高大接続について懇談やニーズ調査を行いました。高校の校長先生の声を直接伺うことができたのは大変貴重でした。高大接続だからこそ、双方が対話し、学生のためになる連携を行っていくべきだと思っています。六月から九月にかけて、教職に興味関心のある高校生を対象とする「ミライの先生セミナー」を四回、七月に「やまなし小学校教育コース」の授業体験を一回行いました。高校生や大学生の熱気あふれる企画で、大変な盛り上がりを見せました。

いわゆる教員就職率②（卒業者数から保育士・大学院進学者を引いて、教員就職者で割った数）は六九・〇％（令和五年度卒生）となり、全国国立教員養成大学・学部では四十四校中十九位、関東地区では一位となり好調です。しかし、教員就職はゴールではありませんので、就職後活躍し続ける教員であるよう教育を行っています。

地域とともに、子どもたちの未来を支える「学びの土台」を作るため、教育学部は頑張っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。